

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 広徳 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"><li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

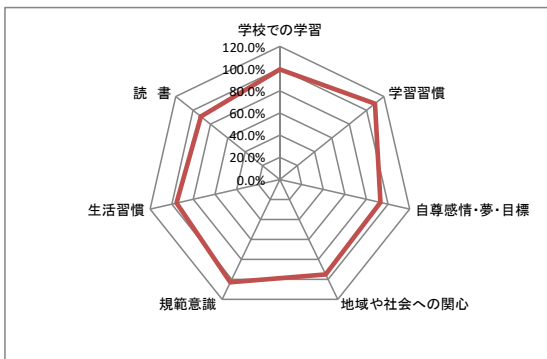
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章中の表現や情報の整理など文章内容の理解力に課題がある。しかし、自分の考えを求める問題やわかりやすく文章を表現する問題の正答率は全国平均を上回る、あるいは全国平均に近い数値になるなど力が身につけている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えたり、封筒の書き方を理解して書く問題の正答率が低い。	
数学	全体的な傾向や特徴など	数の事柄が成り立つ理由を説明するなど数の性質をとらえる力が身につけている。しかし、確率を求めたり、事象を数学的に解釈したりする問題の正答率は、全国平均を下回るなど論理的な思考力に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	数的事柄が成り立つ理由を説明する問題では、全国平均を大きく上回り、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	連立二元一次方程式や確率の問題など複雑な計算や数的な論理的思考に関する問題の正答率が低い。	
英語	全体的な傾向や特徴など	英文に関する情報を読み取ったり、書いたりする問題に対する理解力が身につけている。しかし、説明文の大切なところを理解したり、文中で適切な接続詞を使うなど言葉の理解や一部の語句の技能的な理解に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取る問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	まとまりのある文章を読んで、説明文の概略を理解するなど長文を読み取る問題の正答率が低い。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・学習習慣については、自ら計画的に勉強している割合が全国平均よりも大きく上回っており、家庭学習の定着という点で成果が出ている。	
・規範意識においても、全国平均を上回っており、ルールの大切さや思いやりの大切さなど理解が進んできている。	
・生活習慣では、朝食を食べる習慣が全国平均を下回っており、家庭においても朝食の大切さを理解してもらい、生徒にその習慣を身につけさせていく必要がある。	
・自分にはよいところがあると感じている生徒の割合が全国平均を大きく下回っており、自分の良さに気づかせることが課題である。	

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>◎授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回の互見授業の機会を生かし、「めあて」や「まとめ」の整合性や「振り返り活動」の大切さを理解すると共に話し合い活動やアクティブラーニングを含めた授業改善に対する意識を高める。</li> </ul> <p>◎豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ローテーション道徳に引き続き取り組み、道徳の時間で学んだことを道徳的な実践力につなげられるようにする。特に、自尊感情を高める手立てとして学級の環境整備や人間関係作りを通して「気づき」の体験を重視した学びの機会を数多く体験させると共に、自らの価値を発見し、何事にも自信を持って取り組めるようにする。</li> </ul> <p>◎補充学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等から出される課題に十分取り組めない生徒に対して居残り学習をさせると共に、家庭学習のやり方や工夫の仕方等の指導や助言を行う。また、定期テスト前には質問教室を実施し、苦手教科の克服に努める。</li> </ul>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>◎家庭学習の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自学ノートの活用の仕方について、その活用方法を紹介し、時間をかけて取り組むだけでなく、効果的な学習方法を身につけさせると共に、自ら繰り返し学習しようとする姿勢を身につけさせる。</li> <li>・自学ノートでは、継続して課題の内容や方法を指導し、学級担任を中心に学年で確実に点検する。未提出者は放課後残ってさせるなど粘り強く継続して取り組んでいく。</li> <li>・定期考査2週間前からの「学習計画表」を学級活動の時間に担任指導の下に作成させると共に保護者確認印を担任が点検し、目標を意識させながら計画的に取り組ませる。</li> <li>・家庭学習の実態について、教育相談等でその取り組み方について確認すると共に、その内容を分析し、必要な指導や助言を行う。</li> <li>・家庭学習時間コンクールなど生徒会活動の取り組みを通して、家庭学習に対する意識を高める。</li> </ul> <p>◎自己肯定感の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均を上回る夢や目標に対する高い意識を生かし、あらゆる教育活動を通して自らの良さが夢や目標の実現につながることに気づかせると共に、夢や目標実現のために自ら積極的に努力していくようとする姿勢を身につけさせる。</li> </ul>
---